



Webページ作成と情報社会に 参画する態度に関する考察

埼玉県立朝霞高等学校

春日井 優



はじめに

- 自己紹介
- 概要



用語の定義について①

- タグ (開始タグ・終了タグ)

<H1>ここに表題を書きます</H1>

↑
開始タグ

↑
内容

↑
終了タグ



用語の定義について②

- 要素と属性

<BODY bgcolor="#ffffff">

↑
要素

↑
属性



提案1

Webページを
構造部分と表示部分に
分けよう

非推奨要素・属性を使用しない
HTMLとCSSに分離する



非推奨タグとは？

- W3C(World Wide Web Consortium) 勧告 (1999年12月24日)のHTML4.01仕様書に記載

「一般的に言って、スタイルやフォーマットを整えるためには、HTMLのプレゼンテーション属性ではなくスタイルシートを使用すべきである。スタイルシートによる代替が可能なHTMLのプレゼンテーション属性は、推奨しないこととなった。」



非推奨要素・属性の例

- FONT 要素

- bgcolor属性

<BODY bgcolor="#00ff00">

BODY要素は非推奨ではない

など



非推奨属性で強調？

- 強調

と

実際に強調されるのは？



CSSを使う理由

- Webページは見るだけのものではない
視覚障害者用のブラウザで
読み上げられるか？
- 編集・変更作業の省力化
Webページがシンプルになる
表示方法をまとめて変更できる



情報格差をなくす？

- 「情報格差をなくすようにしなければ…」
とあるけれど

教科書の記述内容により広がってしまう
おそれもあるのではないか



CSSを使おう

- CSSの使用例

```
strong{ font-size : large ;  
        color : #ff0000 }
```

別ファイル、style要素、style属性として使用



CSSを使うことにより

- HTMLを構造中心に記述できる
- Webページを統一のデザインで作りやすく、デザインの更新もしやすい
- 出力先に応じて表示を変えられる



実際の授業では

- CSSを扱えるの？
- 伝えられない現実を知ること大切
- 授業で使うソフトを選ぶところから
授業づくりが始まる



提案2

■HTMLの

必要な情報を

記述しよう



画像には代替テキストを

- 画像を見られるとは限らない

```
<IMG src="image.jpg" width="300"  
height="200" alt="これは代替テキスト">
```

非表示設定・音声ブラウザなどでは
なんだか分からない



タイトルを付けよう

- `<TITLE>タイトルを付けよう</TITLE>`

検索結果を見ると...

「概要」「案内」ではわからない

W3Cでは必須要素になっている



文字コード・使用言語も記述

- `<META http-equiv="Content-Type" content="text/html; charset=Shift_JIS">`
- `<HTML lang="ja">`

検索エンジン・音声ブラウザに有用



提案3

- フレームの
使用を控えよう



フレームについて

- 右のページは
4つのHTMLファイルに
よって構成

見出し	
メ ニ ュ ー	本文



どのようにして見られるのか？

- 検索の結果により見られることを想定しているか？
- 本文のページから他のページに対してのリンクはあるのか？
- 閲覧者が情報を得る機会を奪っていないか？



印刷すると...

- 印刷がうまくできないかも...

メニューだけが印刷される

表題だけが印刷される

ということを経験したことはありませんか？



閲覧者を意識することにより

- 情報格差を減らすことができる
- 必要な情報が得やすくなる
- 更新の手間が減り、更新しやすくなる



とはいえ、敷居が高い...

- Webページを作る足かせになるのでは...

ブログやWebページ更新用フォームなども
利用することも検討

授業では実習の目的を明確にする
必要がある